

Accuphase

DDS FM STEREO TUNER

DDS方式FMステレオ・チューナー

T-1000

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内)にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは17ページをご参照ください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- 取扱説明書 1冊
- 安全上のご注意 1冊
- お客様情報の取扱いについて 1枚
- お客様カード 1枚
- 目隠しシール 1枚
- リモート・コマンダー RC-33 1個
- 単3形乾電池 2個
- プラグ付オーディオ・ケーブル 1組
- AC電源コード(2m) 1本

目 次

付属品を確認します	表紙裏頁
1. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください / ⚠ 注意	2
⚠ 注意 / アンテナ線の接続	3
2. 各部の名前	
フロントパネル, リアパネル	4
3. 接続図	5
4. 各部の動作説明	6~8
5. 『RF ATT』の強制ON機能について	9
6. ステーションへのメモリーと呼び出し	10
7. デジタル出力端子の活用	11
8. リモート・コントロール	12
9. 保証特性	13
10. 特性グラフ	14
11. ブロック・ダイアグラム	15
12. 故障かな?と思われるときは	16
13. アフターサービスについて	17

1. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属以外の電源コードは絶対に使用しない。
- めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
- 電源コードが傷んだら、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

■脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。

- 内部に水や薬品がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

⚠ 注意

■ 次の場所に設置しない。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、本機を2台重ねたり、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

■ 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(ー)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■ 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■ 雷の発生が予想されるときは、アンテナ線を外し電源コードを抜く。また、雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触れない。

- 接続したままで製品等に触れると、感電の原因となります。

■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■ 入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

アンテナ線の接続

⚠ 注意

■ アンテナ工事はお買い上げの販売店にご相談ください。

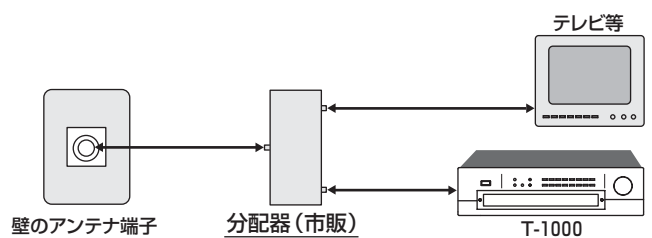
- アンテナは、送電線から離れた場所に設置する。電線に近いと、アンテナが倒れたとき、感電の原因となる場合があります。
- 強風の影響を受けないように、アンテナはしっかり取り付ける。

■ アンテナ線(75Ω同軸ケーブル)をデジタル機器(CDプレーヤーやデジタルアンプ等)に近づけない。

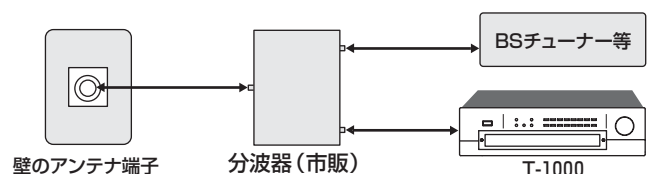
- 近くに置くと雑音を生じることがあります。
- アンテナ線とデジタル機器の電源コードや入・出力コード、スピーカー・ケーブルを離して設置してください。

■ マンションや共同住宅などで、共聴システムをお使いの場合。

- 共聴システムの場合、壁のアンテナ端子にFMの電波が混合されているか、お住まいの管理会社などにお問い合わせください。また、混合されている場合でも、FMの周波数が変更されている場合があります。
- 壁のアンテナ端子をテレビ等と共用する場合には「分配器」(市販)を用いるなど、適切な状態でご使用ください。それぞれの接続は、「75Ω同軸ケーブル」(市販)を使用してください。



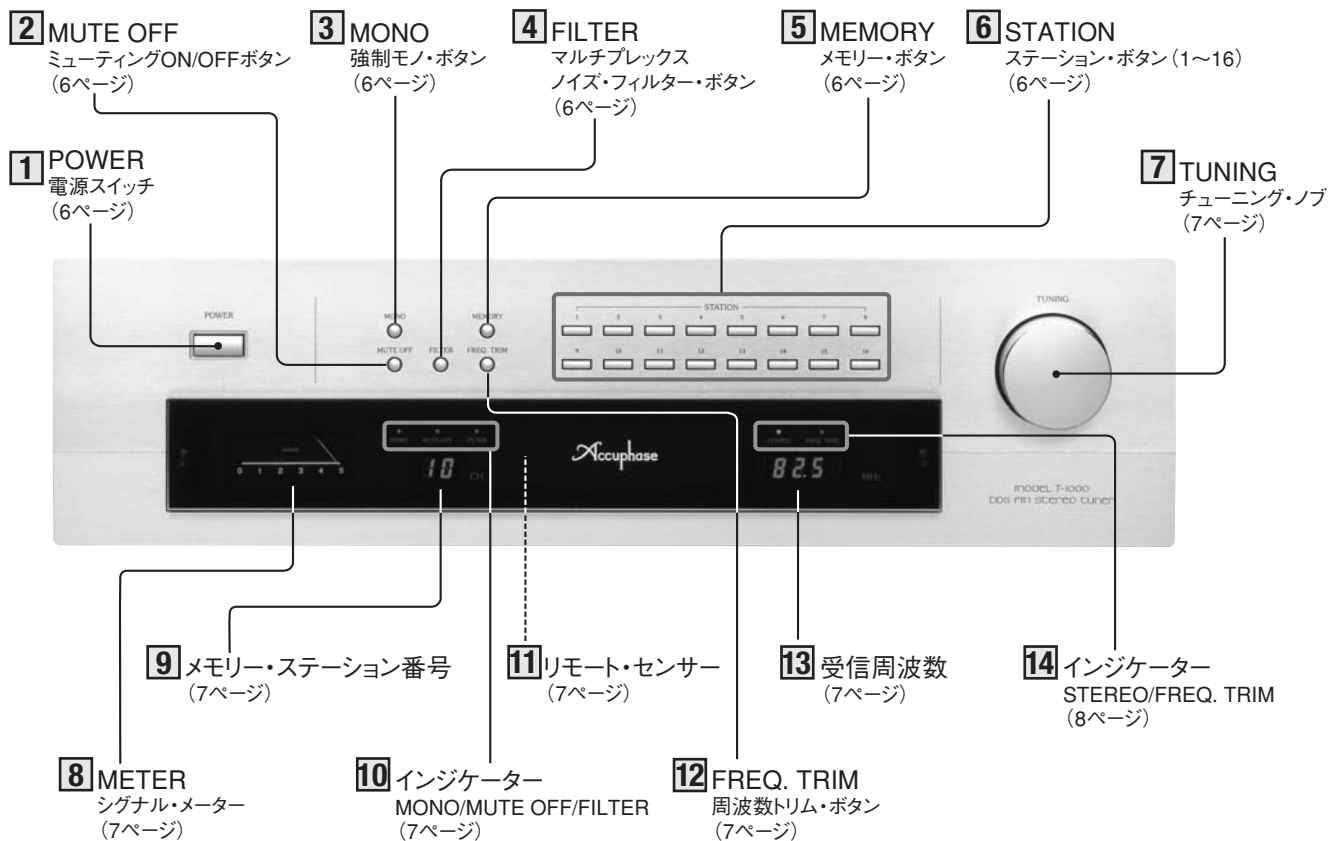
- 共聴システムなどで、FM/VHF/UHF/BS波が混合で供給されているとき、分波器(市販)を使用すると、妨害波を受けにくい様にできる場合があります。それぞれの接続は、「75Ω同軸ケーブル」(市販)を使用してください。



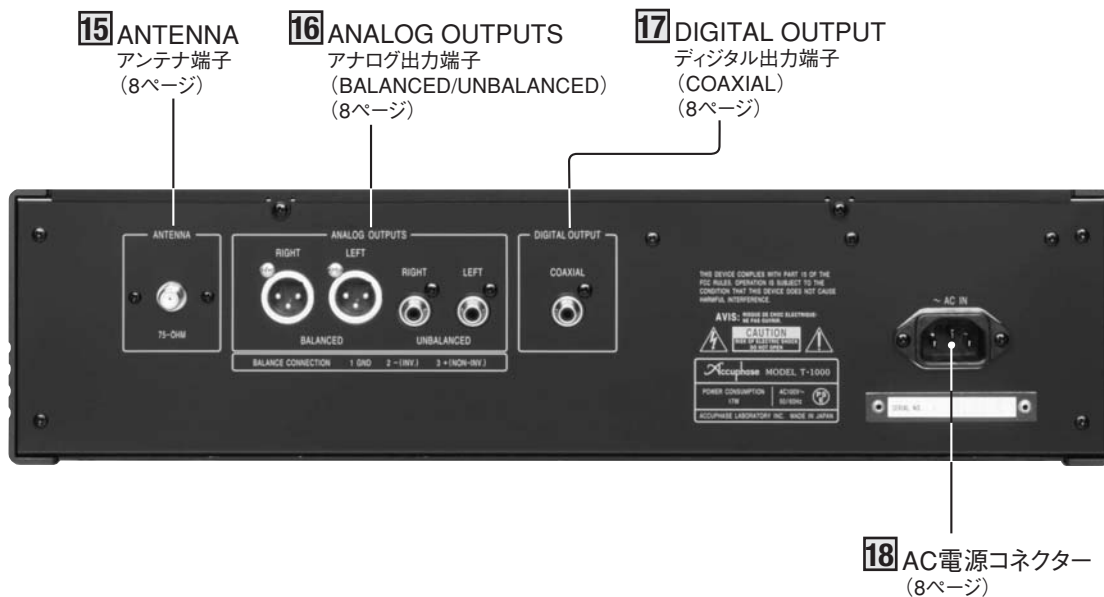
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



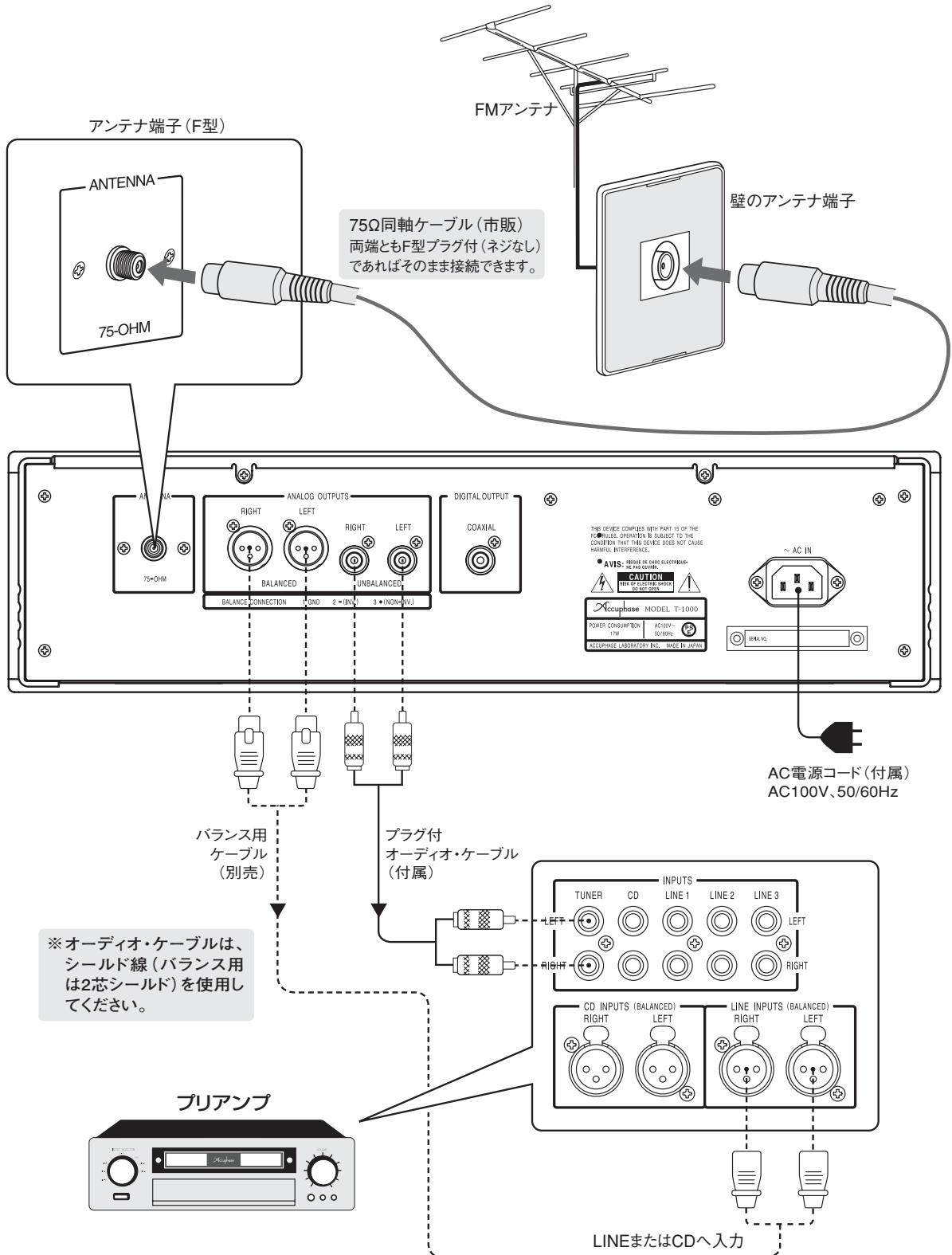
3. 接続図

⚠️ 注意

接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

注意

- 接続するときは、かならず各機器の電源を切り、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
- バランス用とアンバランス用ケーブルは同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



4. 各部の動作説明

1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

本機は電源を切る直前の状態を記憶します。オーディオ・タイマーを使用して放送を録音したり、特定の時刻に受信を開始するときは、電源を切る前に選局をしたり、他の機器も含めて、スイッチ類の状態をセットしておいてください。

2 MUTE OFF — ミューティングON/OFFボタン

ミューティング回路をON/OFFさせるボタンです。

MUTE OFF



- 押して“OFF” : 「MUTE OFF」LED点灯
- 再び押して“ON” : 「MUTE OFF」LED消灯

- 弱い電波の放送局を受信するときは、OFFにしてください。ミューティング回路がONのとき、雑音が多いとその放送局の音が消されてしまうことがあります。

ミューティング回路とは

放送局を選んでいるとき、放送局のないところや電波の弱いところでは、ザーというノイズが聞こえます。このように放送局を離調(同調を外れたとき)したとき、局と局の間に出るノイズを除去するのが、ミューティング回路です。

3 MONO — 強制モノ・ボタン

ステレオ放送受信時にこのボタンを押すと、強制的にモノフォニックにすることができます。

MONO



- 押して“ON” : 「MONO」LED点灯
- 再び押して“OFF” : 「MONO」LED消灯

- 通常はOFFの状態で使用します。
- MONOボタンONで出力はモノフォニックになりますが、「STEREO」表示のLEDは、MONOボタンと関係なく、ステレオ放送の受信によって表示しつづけます。
- 電波が弱く、“ステレオとモノフォニック”が頻繁に切り替わり、音がわずらわしい場合にも有効です。
- チューニング・ノブで他の局に周波数を移動しても、再度ボタンを押すまで、動作は変わりません。

4 FILTER — マルチプレックス・ノイズ・フィルター・ボタン

ステレオ放送受信時には、入力電波が弱いと、高音域のノイズが多くなります。このノイズを軽減するためのフィルターです。

FILTER



- 押して“ON” : 「FILTER」LED点灯
- 再び押して“OFF” : 「FILTER」LED消灯

- このフィルターを入れると、高音域のステレオ分離度が悪くなりますので、通常はOFFで使用してください。
- モノフォニック放送のときは、ONにしても効果はありません。

5 MEMORY — メモリー・ボタン

ステーション・ボタンへ、希望の放送局をメモリーするときに使用します。

詳しい説明は、10ページを参照。


6 STATION — ステーション・ボタン

1～16の任意のボタンへ、FM放送局を16局記憶させることができ、また希望の局を瞬時に呼び出すためのボタンです。

詳しい説明は、10ページを参照。

7 TUNING — チューニング・ノブ

左に回すと受信周波数は下降し、右に回すと上昇します。

- 受信可能帯域の上限や下限に到達すると、それ以上回しても周波数は変化しません。
- 放送局に同調すると、ステレオ放送の場合“STEREO”が点灯します。
- プリセット受信時でも、チューニング・ノブを回すとステーション番号(数字)が  と変わり、手動チューニングが優先して動作します。

本機と同調方式は

回転式のチューニング・ノブに直結した光学的パルス発生器によって、ノブの回転をパルス信号に変換し、このパルスをCPUがカウントして、同調周波数を制御するアキュフェーズオリジナルの方法です。



⚠注意

国内へ出荷されているものは、電源が100V仕様で、受信周波数帯域が76.0～90.0MHzです。海外では使用できません。




8 METER — シグナル・メーター

受信した放送局の電波が、アンテナ端子に入ってくる強さを表示し、電波が強いと、指針の振れが大きくなります。

9 メモリー・ステーション番号

 ~  の中から選択したステーション・ボタンの番号を表示します。

10 インジケーター

- MONO** :  MONOボタンを押して、強制モノON時に点灯します。
- MUTE OFF** :  「MUTE OFF」ボタンを押して、ミュート回路OFF時に点灯します。
- FILTER** :  FILTERボタンを押して、フィルター回路ON時に点灯します。

11 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-33の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

12 FREQ. TRIM — 周波数トリム・ボタン

「FREQ. TRIM」ボタンを押して、チューニング・ノブを回すと、受信周波数を細かく(10kHzステップで)設定することができます。放送局が隣接していて、混信する場合に威力を発揮します。

FREQ. TRIM



- 押して“ON” : 「FREQ. TRIM」LED点灯
- 再び押して“OFF” : 「FREQ. TRIM」LED消灯





例: A放送局:80.0MHz、B放送局:80.3MHzのように隣接局の周波数が近い場合。

A局を受信しようとする時、B局の電波が妨害して混信する(受信不能になる)ときがあります。この場合、「FREQ. TRIM」ボタンを押して、B局から離れるようにA局の受信周波数を移動(例えば79.99MHz、79.98MHz...)し、妨害電波から離れA局がクリアーに受信できる周波数を選択します。

※ 混信の無いときは、「FREQ. TRIM」ボタンOFFで使用してください。ONの場合は、局の中心周波数から「ずらして」受信するため、中心から「ずれる」周波数が大きくなると、ひずみが悪くなります。

13 受信周波数

受信周波数を100kHzステップ(3桁)で表示します。また、「FREQ. TRIM」ON時は、10kHzステップで表示するため、周波数表示が4桁に変わります。OFF時は、3桁表示(4捨5入)に戻ります。

「FREQ. TRIM」ON時の表示例	 82.5	⇒	 82.50 MHz
「FREQ. TRIM」OFF時の表示例	 82.55	⇒	 82.6 MHz

14 インジケーター

STEREO : 受信した放送局がステレオ放送の場合、自動的に点灯します。ただし、微弱電波を受信している場合やモノフォニック放送の場合には点灯しません。

FREQ.TRIM : 12「FREQ.TRIM」ボタンを押して、動作ON時に点灯します。

15 アンテナ端子

F型プラグ付き「75Ω同軸ケーブル」で、FMアンテナと接続します。

接続方法や注意は、「3および5」ページを参照してください。

16 ANALOG OUTPUTS — アナログ出力端子

アナログ出力は、アンプのTUNERまたはLINE、CDの入力端子と接続します。

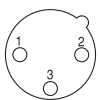
UNBALANCED (不平衡出力)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルでアナログ出力を取り出します。

BALANCED (平衡出力)コネクタ

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクタです。

ピンの極性は、次のようになっています。プリアンプ側の極性と合わせて接続してください。



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノンインバート(+)

●バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

17 DIGITAL OUTPUT — デジタル出力端子

デジタル出力端子(COAXIAL)からD/Aコンバーター等に接続して高音質の放送を楽しめます。また、デジタル・レコーダーを接続してデジタルでの録音が可能です。詳しい説明は、11ページ参照。

18 AC電源コネクタ

付属の電源コードを接続します。

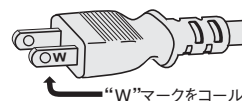


警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

■電源コードの極性について

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのコールド側に『W』マークを刻印しています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。



“W”マークをコールド側にする。

注意

- ※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい方)がコールド側です。
- ※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

5. 『RF ATT』の強制ON機能について

CATVなど共聴システムでブースターにより電波が増幅されていたり、放送局が近くアンテナから過大信号が入力されると、相互変調や混変調等の妨害を受け易くなります。このため本機は、アンテナからの入力信号を減衰させる『RF ATT』を装備しています。

『RF ATT』は入力信号レベルによって自動的にON/OFFしますが、受信状況によって、混信障害や、電波の弱い局が受かりにくくなるブロッキング妨害などが発生することがあります。このような場合、『RF ATT』を強制的にONさせる(アンテナ入力レベルを下げる)ことにより、これらの障害を軽減させることができます。

注意

『RF ATT』強制ON機能は、各周波数ごとに設定することができます。選局後、希望局をステーション・ボタンへ記憶する場合、その局(周波数)が良好に受信できる時には、『RF ATT』強制ON機能を解除して保存してください。良好に受信できる場合は、『RF ATT』強制ON機能を解除した方が性能上有利になります。

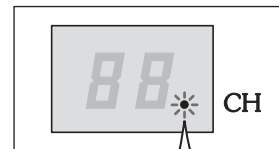
『RF ATT』強制ON機能の設定

① **4** FILTERボタンを1秒以上押す。



②ステーション表示窓の右端下に『ドット』が点灯する。

『RF ATT』強制ONの設定時



ドット点灯

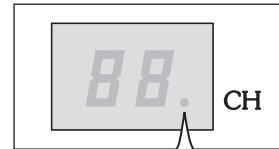
『RF ATT』強制ON機能の解除

① **4** FILTERボタンを1秒以上押す。



②ステーション表示窓の右端下の『ドット』が消灯する。

『RF ATT』強制ONの解除時



ドット消灯

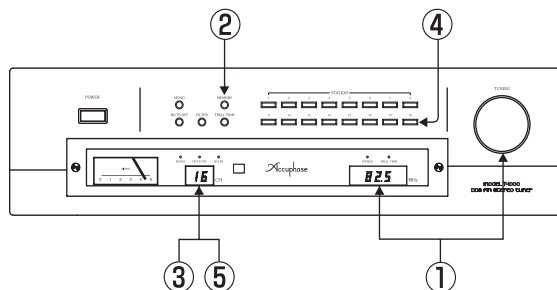
※工場出荷時は、『RF ATT』強制ON機能は解除されています。

注意

- 『RF ATT』強制ON機能は、電源スイッチをOFFにしても記憶されます。
- 『RF ATT』強制ON機能は、他の機能と一緒に各ステーション・ボタンそれぞれに記憶できます。
- 付属リモート・コマンダーRC-33のFILTERボタンでも同様に設定可能です。

6. ステーションへのメモリーと呼び出し

1 ~ 16 の任意のSTATIONボタンへ、希望のFM放送局を16局メモリーすることができます。また、ボタンを押してメモリーした局を瞬時に呼び出し、放送を受信することができます。



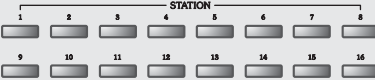

メモリーの方法

例：16番に82.5MHzの局をメモリーする

<p>① TUNINGノブを回して、82.5MHz を選択する。</p>	<p>TUNING</p>  <p>回す</p> <p>82.5 MHz</p>
<p>② MEMORYボタンを押す。</p>	<p>MEMORY</p>  <p>押す</p>
<p>③ ステーションch表示の -- が5秒間フラッシングする。 ● キャンセルするには、再度MEMORYボタンを押す、または5秒間放置する。</p>	<p>-- CH 5秒間フラッシング</p> 
<p>④ 5秒間のフラッシング中に、STATIONボタン 16 を押す。</p>	<p>16</p>  <p>押す</p>
<p>⑤ フラッシングが消え、選択されたボタン番号 16 CH が表示されて、メモリー完了です。</p>	<p>16 CH</p> 

- ①～⑤の操作を繰り返して、各16個のステーションにメモリーすることができます。
- 前回のメモリー内容を変更する場合にも、同様の操作をしてください。
- 「MONO」「MUTE OFF」「FILTER」「FREQ.TRIM」の各機能も同時にメモリーされますので、同じ局(周波数)で機能別のメモリーも可能です。

メモリー局の呼び出しと受信

<p>① 1 ~ 16 の中から希望のSTATIONボタンを押す。</p>	<p>STATION</p> 
<p>② 押したステーション番号とメモリーされている局の周波数が表示され、放送が受信できます。</p>	<p>16 CH 82.5 MHz</p> 

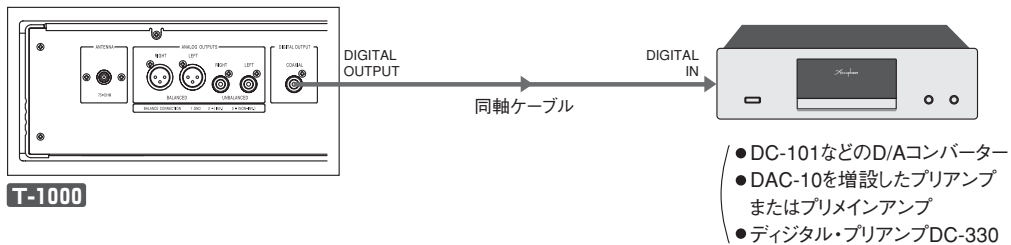
7. デジタル出力端子の活用

T-1000は、デジタル出力端子(COAXIAL)を装備しています。このため通常のアナログ接続での使用以外に、デジタル出力端子を活用し、D/Aコンバーター等にデジタル接続して高音質放送を楽しむことができます。また、デジタル・レコーダーをお持ちの場合は、直接デジタルでの録音・再生が可能になります。

注意： デジタル接続にした場合でも、放送局側の送信品質や受信状態以上に、S/N等が良くなることはありません。

デジタルでの接続例

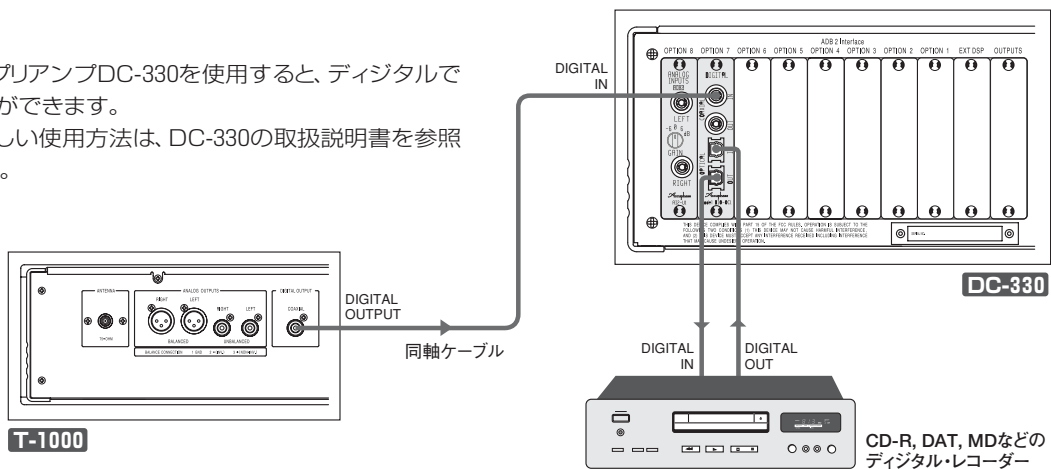
T-1000のデジタル出力端子から、D/Aコンバーターや「デジタル入力ボード DAC-10」を増設できるプリアンプまたはプリメイン・アンプ等へ接続します。



デジタルでの録音・再生

接続例1

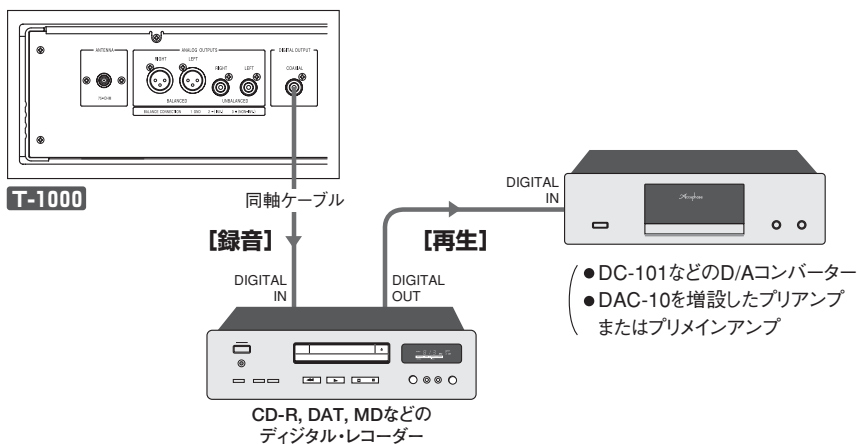
デジタル・プリアンプDC-330を使用すると、デジタルでの録音・再生ができます。DC-330の詳細な使用法は、DC-330の取扱説明書を参照してください。



接続例2

録音は直接デジタル・レコーダーへデジタル接続。

再生は、D/AコンバーターやDAC-10を増設できるプリアンプまたはプリメインアンプ等へ接続します。



8. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC-33の取り扱い方

付属のリモート・コマンダーRC-33を使うと、離れたところからT-1000をコントロールすることができます。
機能の操作はT-1000本体と同じです。

使用方法

リモート・コマンダーの発光部をT-1000本体の⑪リモート・センサーに向けて、下の図の範囲でお使いください。

- ◆落としたり、内部に液体をこぼさないでください。
- ◆直接日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないでください。

電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月はもちますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

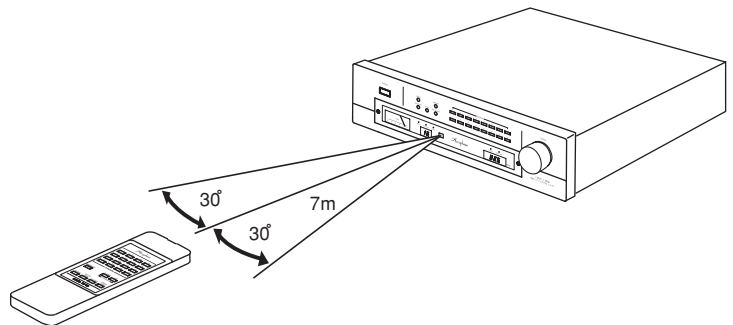
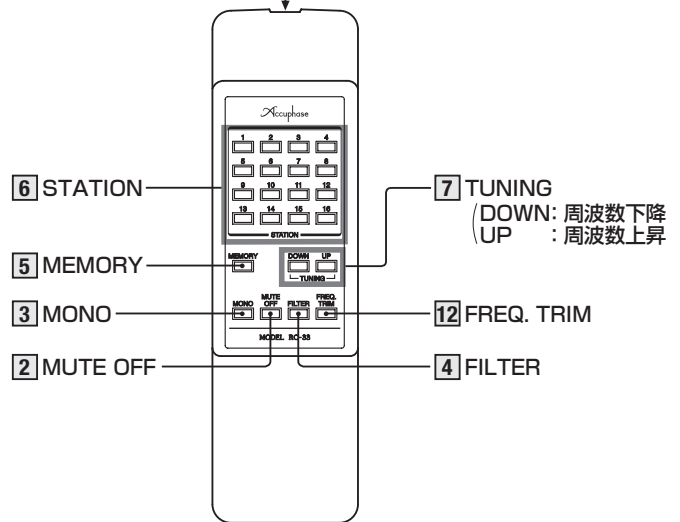
乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、**+**(プラス)、**-**(マイナス)を正しく合わせてください。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。
- 同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。

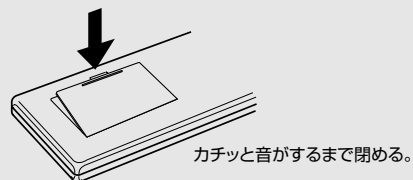
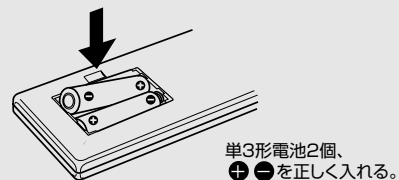
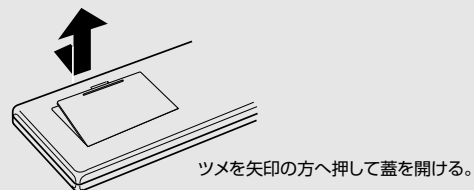
警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

発光部
(本体リモートセンサー⑪に向ける)



乾電池の交換



9. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

受信周波数 76.0～90.0MHz

モノフォニック

感度 実用感度 11dBf(IHF)
S/N 50dB感度 17dBf(IHF)

SN比(80dBf入力、A補正) 90dB

全高調波ひずみ率(80dBf入力、±75kHz偏移)

20Hz 0.02%
1kHz 0.02%
10kHz 0.02%

IMひずみ率(80dBf入力、±75kHz偏移)

0.01%

周波数特性

10～15,000Hz +0 -2.0dB

2信号選択度(IHF)

妨害波	選択度
400kHz	70dB
300kHz	30dB
200kHz	10dB

キャプチャー・レシオ 1.5dB

RF相互変調 80dB

スプリアス妨害比 120dB

イメージ比 100dB

AM抑圧比(65dBf入力) 80dB

サブキャリア抑圧比 70dB

出力電圧(±75kHz偏移) 1.0V

ステレオ

感度 S/N 40dB感度 29dBf(IHF)
S/N 50dB感度 37dBf(IHF)

SN比(80dBf入力、A補正) 85dB

全高調波ひずみ率(80dBf入力、±75kHz偏移)

20Hz 0.04%
1kHz 0.04%
10kHz 0.04%

IMひずみ率(80dBf入力、±75kHz偏移)

0.03%

周波数特性 10～15,000Hz +0 -2.0dB

ステレオ分離度

100Hz 50dB
1kHz 50dB
10kHz 40dB

ステレオ切替入力感度 28dBf

総合

アンテナ入力 75Ω不平衡(F型ターミナル)

定在波比 1.5

同調方式

DDSシンセサイザー方式
16局ランダムメモリー・チューニング

FM検波方式 アドバンスドDGL方式

ステレオ復調方式 DS-DC方式

デジタル出力(EIAJ CP-1201)

COAXIAL : 0.5Vp-p 75Ω
サンプリング周波数: 48kHz

出力インピーダンス

BALANCED(平衡 XLRタイプ): 200Ω(100Ω/100Ω)
UNBALANCED(不平衡) : 200Ω

メーター 信号強度

電源 AC100V、50/60Hz

消費電力 17W

最大外形寸法 幅465mm × 高さ140mm × 奥行402mm

質量 11.8kg

付属リモート・コマンダーRC-33

リモコン方式: 赤外線パルス方式

電 源: DC3V・乾電池 単3形 2個使用

最大外形寸法: 55mm × 194mm × 18mm

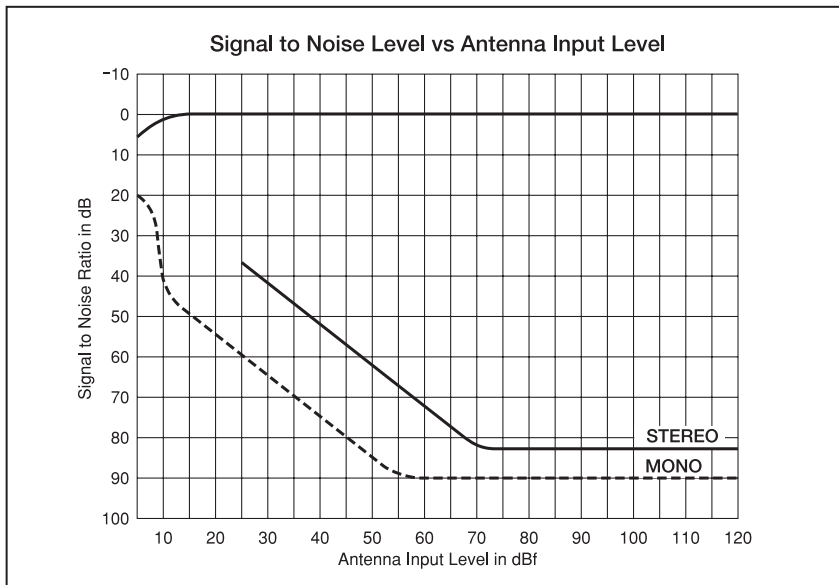
質 量: 100g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

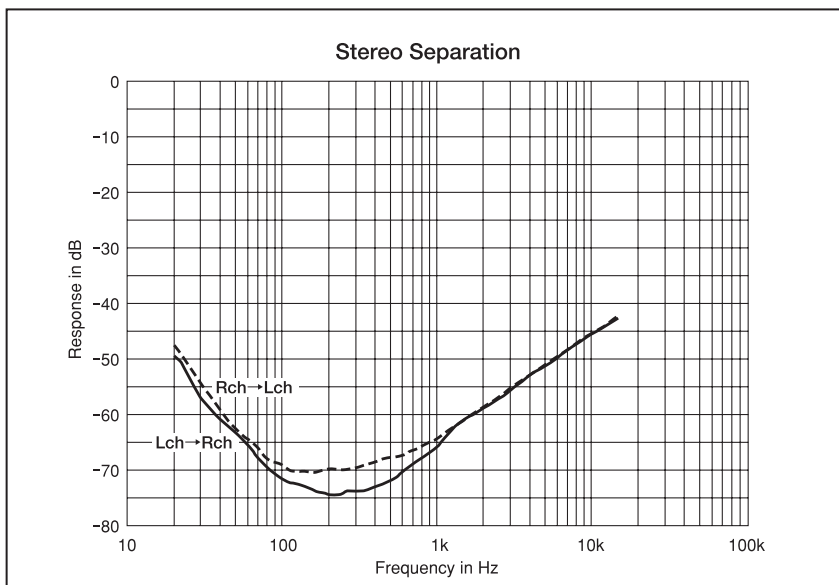
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部: 限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

※本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

10. 特性グラフ



入力信号レベル／ノイズ・レベル(S/N)特性

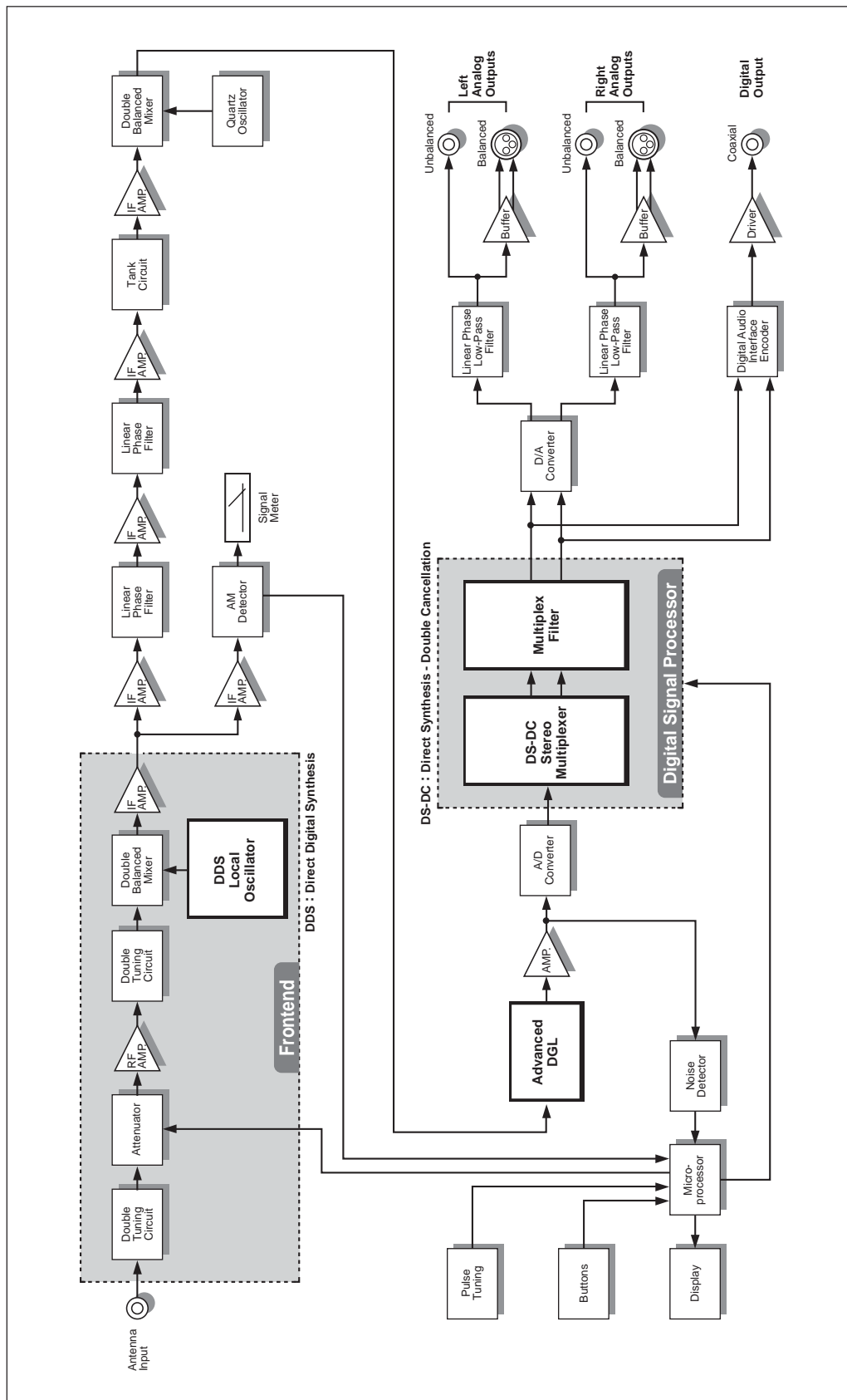


ステレオ・セパレーション特性

著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

11. ブロック・ダイアグラム



DS-DC (Direct Synthesis - Double Cancellation)

ステレオ復調には、アキュフェーズ オリジナルのDDS-DC(Direct Synthesis-Double Cancellation)方式のステレオ復調回路を搭載しました。DS-DCは、次の2つの技術で構成されています。

- ①パイロット信号の直接合成処理・Pilot Tone Direct Synthesis
- ②クロストークの二重打消し処理・Crosstalk Double Cancellation

これらを全て、DSP(Digital Signal Processor)上でソフトウェア演算を行うことにより、理想的なステレオ復調が可能となり、驚異的なチャンネルセパレーションを実現しました。

DDS (Direct Digital Synthesis)

FMチューナーは、アンテナから入った高周波信号をRFアンプで増幅したあと、局部発振器からの信号を混合して、中間周波数に変換します。T-1000はこの局部発振器に画期的なDDS(Direct Digital Synthesis)を搭載しました。

DDSはPLL回路のように帰還方式を用いていないため、水晶振動子と全く同じ周波数純度の出力信号を生成することができ、IF段に不要な周波数変調成分を注入することなく、驚異的な高SN比スーパーヘテロダイン・フロントエンドを実現することができます。

12. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意: 接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない
(ディスプレイが点灯しない)

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

放送が受からない
感度が低い

- アンテナを放送局の方向に調整します。
- 同軸ケーブルは正しく接続されていますか。

音がでない。
またはレベルが低い

- 出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
- アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。

片側から音が出ない

- 出力コードを左右入れ替えます。
(同じ側から音がでない……アンプ側に原因が考えられます。
左右逆になる……本機に原因が考えられます。)

リモート・コマンダーで
操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の⊕・⊖を確認します。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。

13. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

その他

- 改造されたものは修理ができませんのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川 2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)